

(57)

| | | | | |
|-----------|--|---------|---------|--------|
| 氏名(生年月日) | カ 加 | トウ 藤 | タカ 孝 | オ 男 |
| 本 籍 | | | | |
| 学 位 の 種 類 | 医学博士 | | | |
| 学位授与の番号 | 乙第809号 | | | |
| 学位授与の日付 | 昭和62年2月20日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者) | | | |
| 学位論文題目 | 乳癌の予後因子に関する臨床病理学的検討 一特に脈管内侵入所見と細胞異型性との関連について一 | | | |
| 論文審査委員 | (主査)教授 織畑 秀夫 (副査)教授 梶田 昭, 教授 重田 帝子 | | | |

論 文 内 容 の 要 旨

目的

乳癌は一般に血行性転移が多いと言われている。その術後遠隔転移を子細に検討するため、癌細胞の脈管内侵入所見を静脈侵襲、リンパ管侵襲および毛細血管、細動静脈侵襲に分け、さらに癌細胞の異型性を Blackらの分類を参考にしながら、新たに3段階に分類しなおした。この両者の組織所見と他の臨床病理学的事項との関連性および予後との関係を5生率を中心に検討をおこなった。

材料および方法

1971年から1981年までの11年間に東京女子医科大学第2外科学教室において手術をした原発乳癌375例のうち追跡調査で消息の分った腫瘍および、リンパ節の標本が良好な状態で保存されている139例を研究の対象とした。全例にH.E.染色、E.v.G.染色を施した。そのうちで、癌組織の波及程度が乳腺外脂肪組織以上におよぶもの、リンパ管侵襲が中等度以上をみとす69例について、第VIII因子関連抗原による酵素抗体間接法(Dako社 Papkit)を用いて腫瘍組織における毛細血管や細動静脈を染色し、癌細胞の侵入所見を検討した。

成績および結論

1. TNM分類, tnm分類, 組織型, INF(癌の浸潤度)および癌の波及程度は、5生率と有意の相関が認められた。
2. 腺腔形成, リンパ球浸潤および間質量に関しては5生率との相関は認められなかった。
3. 癌細胞の静脈内侵襲(v因子)陽性例は20.1%で

5生率は42.9%であった。陰性例の5生率は78.4%で、v因子による予後の差が認められた。

4. 癌細胞のリンパ管侵襲(Iy因子)陽性例の出現率はv因子に比べ高頻度であった。Iy因子は5生率との相関が大であり、リンパ管侵襲が高度の時の予後は著しく不良であった。

5. Iy因子, v因子ともに陽性の場合の予後は、Iy因子単独の場合より不良であった。

6. Iy因子, リンパ節転移(n因子)ともに陽性例は、Iy因子単独より予後不良であった。

7. 第VIII因子関連抗原により毛細血管・細動静脈とリンパ管の鑑別は可能であったが、今回検索した症例については、反応性血管増生の程度や癌細胞の毛細血管、細動静脈侵襲(F VIII因子)と5生率の間に有意差は見出し得なかった。

8. 細胞異型度による予後の違いは認められたが、INF, v因子, Iy因子およびn因子との間に有意な関係は見出し得なかった。以上の結果から、乳癌の予後を知る因子としては単一の因子のみによる判定は不正確であり、有意を示す各因子の組み合わせによる総合的判断が必要であると考えられた。

論文審査の要旨

乳癌では一般に血行性遠隔転移が予後を左右するものとして重視されているが、この点を明らかにするために、著者は東京女子医科大学第2外科学教室の乳癌手術例について癌細胞の脈管(細動静脈, 毛細管, リンパ管)侵襲, リンパ節転移その他と5年生存率を比較検討した。その結果予後を知るには、その因子は単独でなく、いくつかの因子の組合わせによる総合的判断が必要なことを明らかにしたもので、本研究は学術上価値あるものと認める。

主論文公表誌

乳癌の予後因子に関する臨床病理学的検討—特に脈管内侵入所見と細胞異型性との関連について—
東京女子医科大学雑誌 第56巻 第12号
1116～1128頁(昭和61年12月25日発行)

副論文公表誌

- 1) 乳癌に対する縮小手術につき、特に根治性と術後経過よりみた適応条件の検討
日外科系連会誌 11 79～82 (1984)
- 2) 男子乳癌の4例
東女医大誌 52 (5) 43～51 (1982)
- 3) 乳癌術後の他臓器重複癌の4例
東女医大誌 54 (2) 127～132 (1984)

- 4) 最近の外科的胸部疾患の流れとそれにおける肺癌の比重及び発見の動機による肺癌手術評価の検討
東女医大誌 53 (1) 8～18 (1983)
- 5) 小型腫瘤影で発見され所属リンパ節にサルコイド様反応を示した粘液産生性気管支肺胞上皮癌の1例
肺癌 22 (4) 467～474 (1982)
- 6) 胃および胆嚢領域に発生した悪性線維性組織球腫の1例
日臨細胞会誌 23 (3) 425～429 (1984)